

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月20日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0895100048		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木 岩瀬館	ユニット名	大地
所在地	〒309-1211 桜川市岩瀬229-1		
自己評価作成日	平成27年6月4日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0895100048-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0895100048-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年7月23日	評価機関 決 済 日	平成28年1月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>私たち花水木岩瀬館では、次の三つの法人理念を基本としてご利用者を支援しています。</p> <p>(1) 日々の生活の中でご利用者の意思を最も尊重し、また残存機能を最大限に発揮できるよう援助する事によって「自立した生活」を送れるよう支援します。(2) 設備や人材を含めた施設のキャパシティを総動員し、それぞれのご利用者が望んでいる生活を提供することによって、「人間らしく豊かに生きること」ができるよう支援します。(3) 日々の生活の中で、ご利用様が目的や希望を持ち、自身の役割を自覚できるよう援助する事によって、「生きがいをもって幸せに生きること」ができるよう支援します。</p> <p>また、私たちはこれら三つの法人理念に基づき、次の事業所理念を掲げご利用者を支援します。私たちは「自立支援を目指し、地域とふれあい、笑顔で共に支えあいながら、アットホームな生活を共に楽しめるよう」支援します。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は徒歩圏内に小学校や図書館、スーパー、コンビニなどがあり、生活に便利な環境に立地しているため、利用者は職員と一緒に散歩や買い物に出かけ、その際に地域住民とふれ合っている。</p> <p>管理者や職員は、利用者のこれまでの暮らしを大切に考え、趣味の会への参加を支援したり、以前通っていた図書館へ送迎するなど、利用者の意向にそった支援に努めるとともに、利用者に常に笑顔で接することを心がけながら、家庭的な雰囲気を大切にしている。</p> <p>事業所は地区会員となって子ども110番に登録しているため、通学路になっている小学生が水を飲んだり、トイレを借りに立ち寄るなど、利用者は子ども達と日常的にふれ合う機会がある。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及び事業所理念を作り、それを基本として、昼礼時に読み上げる等して職員間の共通理解を図っている。また、種々のカンファレンスの際、これらの理念に基づいた支援が出来るよう話し合いを行い、実践できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、昼礼時に唱和したり、職員会議やケアカンファレンスで事業所理念にそった支援ができるよう話し合うほか、玄関や居間兼食堂の見やすい場所に掲示して理念の共通理解を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区会員となり、こども110当番を継続して、登下校の小学生と交流することもある。（水を飲みに来たり、トイレを使ったりしている）今後、地域の様々な行事等に参加を図っていききたい。	定期的にフラワーアレンジメントや絵手紙のボランティアの来訪があるほか、民謡や笑いヨガなど地域のボランティアの訪問があり、日常的に利用者とは交流できるよう支援している。 管理者が認知症サポーターとして、認知症の啓発活動ボランティアで近くの小学校にて寸劇を実施したお礼に、プランターの花を贈呈されるなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、桜川市の認知症サポーター事業（民生委員、岩瀬高校学生等）に参加したり、高齢者支援事業等で認知症の啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、地域の代表・行政・利用者・ご家族などに、入居者状況や活動状況を報告し、行事見学・参加、要望などの話し合いを行っている。	利用者の代表や家族等の代表、市職員、民生委員、地区代表、職員の参加を得て2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。 事業所からは入居者の状況や活動報告をするほか、意見交換をする中で、社会福祉協議会で実施している生き生きサロンの、認知症啓発活動に参加してはどうかとの提案を受け、管理者がボランティアとして参加することになり、地域住民との交流の機会が増えている。 運営推進会議で活発な意見を得て、事業所の運営に活かすまでには至っていない。	会議録を欠席の委員や家族等にも送付し、事業所の運営等に関心を持ってもらうことで、多様な意見が出るように促していくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や利用者の入居・退去の連絡、ケア方針の相談など、公的福祉サービスと連携を取っている(高齢福祉課、地域包括支援センター、社会福祉課、社会福祉協議会など)。	市の担当者が運営推進会議に参加しているほか、管理者は認知症サポーター養成講座の打ち合わせ等で、地域包括センターの職員とも情報交換を行っている。 生活保護受給利用者の様子を見に市の担当者が半年に一度事業所を訪問しており、その機会に生活状況や事業所の運営状況を報告したり、情報交換や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の身体の安全上、やむを得ない場合を除いて、身体拘束をしない介護サービスを目指している。現在は、ご家族の承認を得てつなぎ使用やユニットの時間を決めた施錠を行っている。	管理者や職員は身体拘束の弊害について理解し、身体拘束をしないケアに努めている。 入居間もない帰宅願望の強い利用者があり、家族等の了承を得て職員配置が少ない時間帯に、ユニットの施錠をしている。 法人全体で実施している、身体拘束排除に関する研修に、職員が出席してその後伝達研修を行い、全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	従来より、法人本部を核とした研修に参加するなどして、虐待防止についての意識を深め、事業所内などで虐待が見過ごされないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や介護支援専門員など、権利擁護に関する制度を学び、必要に応じその都度、職員に指導を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、理解し易く、わかりやすい丁寧な説明を心掛け、説明・同意していただいた後に、契約の締結をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での要望や外部評価の利用者家族アンケートを参考にしている。また、家族の面会や電話連絡、家族会などで頂いた意見をホーム運営につなげている。	家族会開催時に運営推進会議への参加を呼びかけた結果、家族等の代表が運営推進会議に出席することになったほか、管理者や職員は、利用者や家族等からいつでも話を聴ける体制を整えている。 家族等に無記名のアンケートを実施し、日頃の支援について感謝の言葉をもらっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課、目標管理制度を用いた個別面接や職員会議など各種会議を通して、随時職員の意見を集約し、事業運営に反映させている。	管理者は業務委員会を設置し、業務内容の見直しをしたり、職員が働きやすい環境づくりに努めている。 目標管理制度を用いて、職員は半年に1回自己目標を策定し、管理者は職員と目標達成を含めた面談を実施して職員の意見等を聞いたり、人事考課を実施している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規程などを完備している。また、法人内の「職場と家庭の両立委員会」や「メンタルヘルス委員会」「カルホビ委員会」等の活動にて職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人材育成委員会を設置し、委員及び研修担当職員を設け、キャリアアップ研修やスキルアップ研修を行っている。今年度は、法人全体でOJT研修を行い、現場での教育制度の構築に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	桜川市グループホーム協議会や桜川市ケマネ会、桜川市認知症アドバイザー活動に参加して、同業他社との交流を図ったり、情報交換や地域密着施設として地域貢献活動を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前調査にて、利用者やご家族の事前の意見を確認している。不安や悩みを傾聴して、当館との信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員、計画作成担当者、職員が連携し、ご家族の要望等に耳を傾けるなどして関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・ご本人と面会し、事前調査を行うなどして必要な支援を届けられるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者が目的・希望を持ち、自身の役割を自覚できるよう援助し、共に「生きがいをもって生活」できるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力していただくことで、生活が安定している方も居る。特に外出、食事、病院受診などで協力していただいている。また、本人の状況を伝える為、毎月職員が手紙を書いて送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	図書館の利用やクラブ活動への参加など趣味活動ができるだけ継続できるよう、人や場との関係継続の支援を心掛けている。	利用者が2週間に1度通っている詩吟のクラブや、以前から利用している図書館に送迎し、馴染みの人や場との関係継続を支援している。 定期的に訪問がある近くの理容室の店主や、3年継続しているフラワーアレンジメントの先生とは、馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、リビングや外出などでコミュニケーションを取れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と連絡を取るなど、近況を確認している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人の生活歴や訴えをお聞きして、必要な支援を提供している。各職員が、申送りやケアカンファレンス、職員会議などで利用者支援の共通理解を図っている。	職員は利用者との日々の関わりの中で、会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思表出の難しい利用者については、日常生活の中で仕草などから思いを汲み取り、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族から生活状況をお聞きしたり、また、他機関から情報提供を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、身体状況や日毎のレベルを見極め記録し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当職員を配置して、担当職員と計画作成担当者が共にケアプランを作成している。毎月、ケアカンファレンスを開催したり、2ヶ月毎にモニタリングを実施している。	介護計画の作成は、担当職員がアセスメントを担当し、利用者や家族等の意見を取り入れて計画作成担当者が作成している。 毎月ケアカンファレンスを実施したり、2ヶ月毎にモニタリングを実施しており、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、朝夕方の申し送り簿などを利用し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご自宅訪問や趣味の発表会、ご親戚の葬儀等、ご利用者やご家族の希望にできるだけ副えるよう、きめ細やかな支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に訪問活動を実施していただいたり、地域の図書館やクラブ活動などにも参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や医療連携機関との関係を保ち、受診後の結果は必ず家族に報告・相談を行っている。利用者、家族の希望を尊重した対応を実施している。月2回、かかりつけ医の往診がある。	月2回の協力医療機関の医師による訪問診療のほか、訪問看護事業所の看護師による、週1回以上の訪問看護を支援している。整形外科に通院している利用者については、家族等の付き添いを基本としているが、必要に応じて職員が付き添っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との連携を行い、看護師の週1回の訪問を実施している。また、日常の変化にも速やかに対応できる連携体制を築いている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、迅速に情報提供を行っている(個人情報への扱いには留意している)。また、随時、職員面会等により、医師・看護師とご家族との連携を取り対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	掛かりつけ医院や訪問看護事業所との医療連携体制を中核として、家族と関係機関と連携を取り、重度化や終末期の支援に取り組む体制を築いている。	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を作成し、利用開始時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 これまで看取りの経験はなく、現在も対象者はいないが、法人全体で実施されたターミナルケアの研修に管理者が出席し、事業所で伝達研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修にて職員の救急救命講習参加の機会をつくっている。今後も定期的に講習受講を行う予定である。急変時の対応については、すべての職員が把握できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施し、災害時、職員が対応できる体制を構築している。消防署の協力なども得ている。	毎月避難訓練を実施し、実施記録を作成しているが、夜間想定や地域住民の参加を得た避難訓練のほか、反省点や今後の課題を話し合うまでには至っていない。 職員や関係機関との緊急連絡網を整備し、事務室に掲示している。 災害に備え、食糧品等の備蓄品を一覧表を作成して管理している。	夜間想定での避難訓練や消防署に立ち会いを依頼し、2階ユニットからの避難について、アドバイスを受けることを期待する。 訓練時に地域住民の参加を得ることと、訓練後は職員で反省点や課題を話し合い、実施記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やケアカンファレンスなど、機会があるごとに職員間で個人のプライバシー確保や人格の尊重について、話し合いをしている。	法人本部で実施する新人研修で、接遇についての研修を受けており、敬語を中心に適切な言葉遣いに努めているが、日常の会話の中に無意識に上から目線での言葉を発した場合には、管理者や職員同士で注意をしている。 契約書等は事務室の鍵のかかる書棚で管理しているが、個人情報のファイルは利用者が立ち入らない、施錠ができる書棚等で管理するまでには至っていない。	個人情報ファイルについても、鍵のかかる書棚等で管理し、情報の漏洩に留意していくことを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出希望の利用者に同行したり、自己決定を支援している。本人の思いや希望など、表現の難しい利用者にも、寄り添いながら思いを汲み取る努力をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	穏やかに生活できるように、お一人お一人に合った生活支援を実施している。天気がよく希望があれば、その都度外出支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替えを職員と一緒に選んだり、衣類の買い物などにも職員が同行するなど、ひとり一人の状況に応じた支援を行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備をし、食卓を囲み、食事の後片付けなども、職員と共に行っている。	献立と食材は宅配業者を利用し、調理担当の職員が昼食と夕食の調理をしている。利用者はおかずの盛り付けや食器拭きなど、出来る範囲で手伝いをしている。月に1度季節の食事を企画し、買い出しから調理まで利用者は職員と一緒に行ない、食事を楽しんでいる。徒歩で行ける所の定食屋や、近くのファミリーレストランでの外食を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の調整など、必要な利用者には観察記録、栄養管理を行っている。お一人お一人の状況に応じた支援をしている。特に夏場の水分摂取には十分注意していきたい。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。入れ歯の洗浄や口腔ケアグッズの使用等、お一人お一人の状態に合わせた介助を励行している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状態や排泄パターンを把握し、時間を見て声がけ・トイレ誘導する等、排泄の自立を支援している。	排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合ったトイレ誘導をするとともに、リハビリパンツを活用して、排泄の自立に向けた支援をしている。おむつ使用の利用者が立位の姿勢が安定したことで、リハビリパンツに改善するなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫(ヨーグルトなど)や水分摂取、運動、マッサージ、服薬など医師・看護師と連携しながら個々の排泄のリズムを大切にして便秘を予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴の時間を設けている。時間帯は指定しているが、その都度、入浴の確認を行い、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を楽しんで頂いている。	週2回以上午後を基本に入浴支援を実施している。 入浴を好まない利用者に対しては、声をかける職員を替えたり、タイミングを見計らって誘導するほか、必要に応じて同性介助の対応をしているが、それでも難しい場合には、清拭だけでも実施出来るよう働きかけている。 入浴剤を利用し、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が充分に取れるように、晴れた日はなるべく日光にあたって頂いたり、外出支援や毎日の体操・レクリエーション等の実施により、日中の活動が確保できるよう支援している。また、昼食後は、夜間の妨げにならない程度の午睡をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全な服薬支援をおこなうため、薬の変更時には、申し送りなどにおいて誤薬の無いように、職員全員に徹底している。服薬時には、毎回、声に出して利用者に確認して、服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後片付けや洗濯物の手伝い、散歩、テレビ鑑賞、歌、会話など、利用者それぞれが充実感を持てるものを選択し支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をお聞きして、お墓参りや帰宅、外出、外食の支援を家族との協力により行っている。	日常的に事業所周辺を散歩し、近所の人と挨拶を交わしたりしている。 日用品の買い物等職員が出かける際は、利用者も同行して買い物を楽しんだりしている。 年間行事計画を立てて、笠間稲荷や真壁のひな祭り、雨引観音など、季節に応じた外出支援を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により、お金を所持していただいている（ご本人とご家族の希望により支援している）。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、自由に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に季節の花を植えたり、季節感の有る掲示物などを利用者と共に製作したりして、心地よい共用空間づくりを行っている。夜間時は、館内照明の工夫（明度など）をしている。	廊下は十分な広さがあり、手摺は高齢者の身長に合わせて低めに設置し、使い易いよう配慮している。 庭に季節の花やミニトマトを植えたり、玄関に七夕飾りをつけるすなど、季節を感じられるよう配慮している。 居間兼食堂には、外出時の写真やレクリエーション時に制作した絵手紙、塗り絵などの作品が飾られており、居心地よく過ごせる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士が、一緒になり会話を楽しめるような居場所を作る等、共有空間の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族に、自宅で使用していたものを持参いただけるように支援している。また快適に利用していただけるように、担当職員が利用者と共に居室の整備や飾り付けを行っている。	居室はエアコンやカーテン、鏡付きの洗面台が備えられており、ベッドについては利用者に使い易い介護用のベッドをリースしている。 テレビや整理筆筒、衣装ケース、椅子、位牌、時計、家族の写真などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心な生活の場となるように、またご本人の出来ることを支援できる環境づくりを行っている。シルバーカー、歩行器、ポータブルトイレやセンサーマット等の使用等。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 花水木岩瀬館

作成日 平成28年2月3日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議では、参加者より活発な意見を得て、事業所の運営に活かすまでには至っていない。	運営推進会議への地域住民や家族の参加を増やし、その内容を家族等に通知し、多様な意見が得られる。	①運営推進会議の参加者について検討し、参加者を募る。②運営推進会議の内容を欠席した委員や家族に通知する。	H28・3月まで
2	13	避難訓練を実施し、記録を作成しているが、夜間想定や住民参加、反省点の話合いの機会が無い。	夜間想定や住民参加の訓練を実施し、反省点についての話し合いの機会を設ける。	①避難訓練の方法の再検討。(近隣住民の参加等) ②訓練の反省点の確認の時間を設ける。	H28・3月まで
3	14	個人情報ファイルが施錠できる書棚等での管理に至っていない。	個人情報ファイルを鍵のかかる書棚等で管理し、個人情報の漏洩を防ぐ。	鍵の掛かる書棚を購入し、個人情報が漏洩しない体制を作る。	H28・9月まで
4	12	利用者の重度化や看取りに対する職員理解の充実を図る。	重度化や看取りについて、職員が共通の理解・意識を持ち対応することができる。	現在は、重度化や看取りの対象者はいないが、そういった方が出た場合に対応できるよう職員研修の機会を持ち、知識・意識を高める。	H28・9月まで
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。